

次世代アグリビジネスの現状と今後

東信州次世代産業
振興協議会 農商工連携セミナー開始

東信州次世代産業振興協議会(上田市、信州大)は、8月9日、次世代アグリビジネス産業の現状と今後は学ぶ「東信州次世代農商工連携セミナー」を、上田市産学官連携施設で開いた。県内外で新しい農商工連携の実践的な取り組みを進めている経営者などが講師として、そ

に年間200種類の野菜を栽培し有名ホテル・デパート、全国のマルシェで直接販売する大型農家のコスモファーム(高松市)の中村敏樹代表(上田市出身)が「多品種少量栽培で成功できる!」と、小規模な農家の「稼き方」をテーマに成功の要因を述べた。市場を使って流通させた場合と直売所での販売で農家の手取りは大きく変動する。そのため「生産者と消費者が直接つながれるようになる」と、消費者は安く野菜が手に入るのに、生産者は高い儲けが出る。消費者は安く野菜が手に入るのに、生産者は高い儲けが出る。消費者は安く野菜が手に入るのに、生産者は高い儲けが出る。

同セミナーは、環境に

議会(☎0268-23

レポート

次世代の農商工連携の 実践的取り組み

まず、自動車販売業を営む傍ら、遊休農地を活用してソバの栽培から加工・調理提供まで一貫した新しい農業に挑戦しているかまくらや(松本市)の田中浩二代表が「異業種からの農業参入」の課題解決をビジネスに」と題し、講演。新規就農者や異業種からの新

◇ 続いて、香川県を拠点

が重要」と指摘。例とし